

平成31年度 京都府立城南菱創高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営計画）	前年度の成果と課題	本年度の学校経営の重点（短期経営計画）
1 普通科と専門学科を併置した単位制高校として、斬新かつ先進的な教育を創造する。 2 教育理念（自主創造、真理探究、社会貢献）に基づき、学校目標である「確かな進路実現」「充実した自主活動」を具現化し、『存在感ある学校』へと変容を遂げる。 3 生徒、保護者、地域から信頼される学校づくりに邁進する。	開校11周年を迎え、城南菱創の良き「校風」と「伝統」が一層充実、発展した。 ※学校評価アンケートでは90%以上の生徒が高校生活に充実感・満足感を感じている。 次の3つを重点課題とした。 1 教職員の教育力の向上 2 学校の魅力の充実 3 広報活動の充実	1 『単位制教育』の特色を十分に活用する。 ※全ての取組において、一層の「質の向上」を目指すとともに「こだわり」をもって指導し、生徒や保護者の満足度の高い、魅力ある教育活動を推進する。 2 高大接続改革に向けて、情報収集や研修に努め、具体的に取り組む。 3 ホームページや学校説明会等で丁寧な広報活動を行い、中学校、中学生・保護者等に役立つ情報を提供する。 4 本年度以降の進路実績の数値目標（国公立大+難関私立大=実数140名）の達成に向けて指導する。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
組織・運営	機能的な組織・運営の在り方の追求	① 生徒こそが、最も重要な外部評価者であることを理解しつつ、保護者アンケートや学校評議員からの御意見等の結果を分析して課題等を明確にし、分掌間の連携と教職員の共通理解のもと解決に努める。	A	A	B	学校全体で経営目標の共通認識を持ち、分掌間の連携の下、教科指導や行事の運営が行えた。 働き方改革に向け、教育機関としての使命を果たしつつ、行事の精選等を行い、全体で業務のシェアをさらに進める必要がある。
		② 京都府教育委員会の策定した「教職員の働き方改革実行計画」をしっかりと受け止め、本校において具体的にどのように取り組むべきかを検討し、実行する。	B	B		
		③ 各分掌・教科及び各個人が、学校経営計画を踏まえた目標を設定し、組織的に教育活動に取り組む。 部長会議をはじめ、分掌会議や教科主任会議でしっかりと検討、調整し、全教職員が共通理解できるよう努める。	B	B		
教科指導	教科指導力の向上	④ 学力向上は勿論のこと、多様な学習ニーズや興味関心に対応できるよう、教科指導力を向上させる。	A	A	学力向上は勿論、思考力や想像力の育成を図る努力をしている。また、自習環境を整え自立する生徒の育成に努めている。 探究活動の在り方について、継続して検討していく。授業改善に取り組み、さらに指導力向上に努める必要がある。	
		⑤ 教科の特性を生かし、学校の特色化の推進に貢献できる取組をさらに充実・発展させる。	B			
		⑥ 教員が相互に積極的に授業参観、情報交換を行うことにより指導方法を工夫、改善し、質の高い教科指導を目指す。	A			
		⑦ 府立高校実力テストや実力テストの分析を行い、学力の定着度を適宜検証する。	A			
	学習力の育成	⑧ 生徒自身がしっかりと時間管理をし、目標達成に向けて自発的・自律的な学習ができるよう指導する。	A	A		
⑨ 生徒の学習面での課題を的確に把握し、適宜課題等を与えることによって興味・関心を引き出すとともに、知的好奇心を満足させるようきめ細かな指導・助言を行う。		A				

生徒指導	生活・学習規律の確保	⑩ 規範意識を高め、生徒自らが規律ある学校生活、安心・安全な学校生活を送れるよう指導する。特に、薬物乱用根絶、情報機器の正しい使い方や個人情報の保護については、継続的に指導を行う。 選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことにより、社会人としての自覚と責任を一層意識させる指導に努める。	B	B	B	規範意識の高い生徒が多く、「和気藹々」の雰囲気の中で規律ある生活を送る指導ができています。毎朝校門での声かけ、担任、教科担当者の生徒観察により、小さな変化に気を配ることができ、必要に応じた迅速な対応ができた。 品格ある高校生の育成を目指し、さらに保護者と学校が連携していく。
		⑪ 頭髪や制服の着こなし等の身だしなみ、挨拶や言葉遣い等については、教職員の率先垂範により生徒にその大切さを理解させ、品格ある高校生の育成を目指す。	B			
		⑫ 日々、生徒の小さな変化を見逃さないよう気を配り、迅速に報告・連絡・相談を行う。特に配慮が必要な生徒については、情報を教職員が共有し、理解を深めた上で指導する。	B			
	保護者との連携	⑬ 各種通信や面談、家庭訪問等により保護者との相互理解を促進する。特に課題を有する生徒の指導については、共通理解のもと取り組む。	A	A		
特別活動	学習と部活動との両立 学校行事の活性化	⑭ 部活動や学校行事に積極的に取り組み、健全な人間関係を構築できるよう指導する。 「切替と集中」により限られた時間を有効活用し、常に質の向上を目指すよう指導する。	A	A	A	部活動加入率が90%を大きく超え、時間管理を行い、バランスのとれた学校生活を送れている生徒が増えている。
進路指導	可能性への挑戦を支援する進路指導の推進	⑮ 高大接続改革の目指すところを十分理解しながら城南菱創の進路指導の軸を明確にし、土曜講習や特別講座、冬季学習会等を計画的、系統的、効率的に実施する。	A	A	A	個別指導の一層の充実により支援ができた。土曜講習、長期休業期間中に補習を実施した。特に学習合宿に変わる2年生冬季学習会は新たな取組であり自立した学習者の育成面において成果を挙げた。計画的・継続的な模擬試験の実施と分析を行い個別指導に繋がった。 大学に関する情報の収集にさらに力を入れる必要がある。
		⑯ 進路学習や個人面談をとおして進路意識の向上に努めるとともに、個別指導を充実させ、可能性への挑戦を支援する。	A			
		⑰ 実力テストへの積極的な参加を促し、結果を生徒自身が意識して活用するよう指導するとともに、進路指導部、学年部、教科が協力して早期対策をとる。	B			
		⑱ 大学入学共通テストに向けた情報提供と対応	A			
	来年以降、数値目標値が達成できるよう指導の在り方を検討する。	⑲ 「国公立大学+難関私立大学」への進学については、数値目標が達成できるよう努力する。	B	B		

人権 健康 安全 環境	教育的配慮を要する生徒への支援	⑳ 学校生活に困難を有する生徒への支援については、教育相談会議等を中心に組織的に取り組む。	B	B	人権意識の高揚を目指し、3年間の学習計画に基づき指導ができた。学年通信等で継続して事後指導を行った。 日常の清掃活動に力を入れ、美しい学習環境が維持できた。生徒の健康面を第一に考え、衛生上必要な対応を迅速に行った。
	人権意識の高揚を図る	㉑ 人権学習の内容を充実させ、一人一人が高い人権意識を持つ集団となるよう指導する。	B		
	安心・安全を第一とし、優先順位を明確にして施設・設備の充実を図ると共に、校内美化に努める。	㉒ 安心・安全を第一とし、怪我や体調不良があった場合、的確な判断と適切な対応がとれるよう、体制を確立するとともに、救急搬送や保護者、管理職への連絡等迅速な対応に努める。	B	B	
		㉓ 日頃から、教室の美化、整理整頓について細部にまで注意を払い、「いつ、誰に学校訪問していただいても恥ずかしくない」落ち着いた学習環境を生徒自らがつくるよう指導する。	A		
		㉔ 安心・安全な学習環境、より快適な学校生活を目指して、危険箇所や衛生面での改善、施設設備の一層の充実に努める。	B		
広 報	本校の魅力や求める生徒像等を様々な機会を活用して発信する。 より効果的な広報活動を検討する。	㉕ 学校説明会や芸術展、創華祭等の行事を通じて生徒の活動、姿を発信する。	A	A	学校説明会等を多方面で定期的実施した結果、参加者が過去数年と同様の数となった。また、お知らせメール、HPで様々な教育活動について詳細に情報発信をした。
		㉖ ホームページやお知らせメールを一層充実させ、タイムリーに適切に情報を学校内外に提供できるように努める。	B		

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な悩みを抱える生徒や保護者の対応については、スクールカウンセラーの活用がしっかりできており、継続して個々の生徒の指導をお願いしたい。 ・入学式後に、保護者対象にスクールカウンセラーから悩みを抱える子どもへの対応の仕方や心構えについて話ができただことは意義がある。 ・部活動加入率が高く、多くの生徒が放課後部活動に励み、また遠方から通学する生徒が多いが、生徒の睡眠時間等を把握し、規則正しい学校生活を送れるように御指導いただきたい。 ・体育祭、文化祭を参観し生徒が生き生きと取り組んでいる姿を見て、楽しい学校であることがよく分かった。 ・城南菱創として11年目を迎え、校長先生の指導方針をお聞かせいただき、深化・発展を目指されていることがよく分かった。 ・近隣住民として、最近では城南菱創生についての苦情は聞かなくなっており、先生方の熱心な指導が伺える。小倉駅から学校に向かう生徒は道路の端を通行しておりマナーが良いと耳にする。 ・入学選抜の結果を見ても、中学生から人気の高い高校となっており遠方から希望する生徒が増えていると聞くが、山城地域の学校としてさらなる発展を願う。
----------------------------------	---

次年度に 向けた改善 の方向性	<ol style="list-style-type: none">1 全ての生徒が、本校の目標である「確かな進路実現」「充実した自主活動」を達成するため、各自が時間管理をしっかり行い、和気藹々の雰囲気の中でメリハリのある生活を送るよう引き続き指導する。2 保護者との連携を図りながら、生徒達の規範意識の高揚・マナーの向上に努めるとともに、生徒達が安全・安心で充実した学校生活を送り、一人一人が品格ある個人として自らを律し、自立した社会の一員となるように指導する。3 在校生、保護者の学校評価アンケートの結果や意見を取り入れながら、さらなる授業等の改善に努める。4 中学生及びその保護者が本校をより良く理解し、確かな進路選択ができるよう、親切かつ丁寧に情報提供を行う。 (中学校への定期的な訪問、学校説明会・施設設備の見学会の実施、体験授業・部活動体験等の実施、中学生による学校訪問受入れ、中学校への出前授業の実施、中学校での進路説明会への参加等)5 S T E A M教育を念頭に、新学習指導要領の実施に対応すべく、校内研修の充実や教員の指導力向上に向けた取組を積極的に進める。6 より充実した学習環境を提供するため、施設設備の修理や充実に努める。
--------------------------------	--